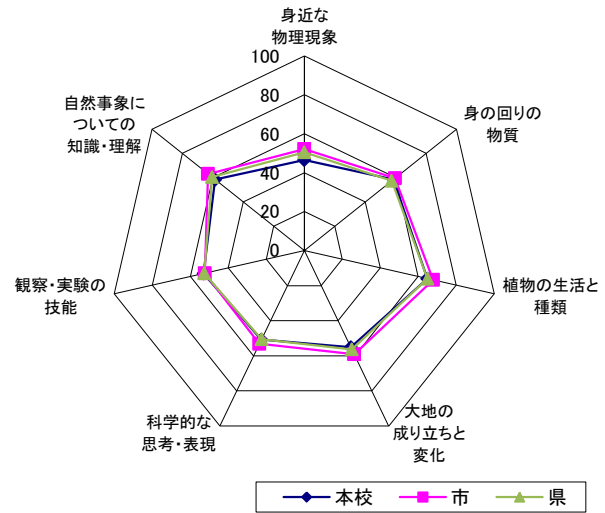


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	46.5	52.1	50.5
	身の回りの物質	58.6	59.6	57.4
	植物の生活と種類	64.8	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	55.2	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	50.8	53.1	50.6
	観察・実験の技能	53.0	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	58.5	63.1	60.5
観点	総合（教科全体）	56.3	59.6	57.3
	基礎（基礎・基本）	59.5	63.5	61.2
	活用（思考・判断・表現）	50.8	53.1	50.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○力と圧力の分野で、ペットボトルがつぶれた理由を考察し、記述する問題では県や市の平均を上回る正答率が得られている。 ●物理分野全体的に課題が多い。特に光と音に関する内容の理解が不足している。	・光の反射、屈折の仕組み、音の波形の示す意味など、実験とともに、問題演習の時間を多く取り入れる必要があると考えられる。
身の回りの物質	○科学分野では全体的に高い正答率が得られている。 実験器具の扱い方について、高い正答率が見られ、特にガスバーナーの扱い方は県や市の平均を大きく上回っている。また、密度から物質を特定する問題でも比較的高い正答率が得られた。 ●水溶液の質量パーセント濃度を求める問題で、課題が見られる。	・今後も実験操作については、しっかりとした指導を継続し、今後の実験に対応できる力を身につけさせていく。 ・質量パーセント濃度を求めたり、利用したりする問題等、計算を伴う問題を多くこなす必要がある。
植物の生活と種類	○光合成に関する対照実験の問題では、県の平均を上回る正答率が得られている。 ●植物の分類で、種子植物の分類に関する理解が不足している。	・顕微鏡は、操作方法の理解が不十分でも操作できてしまうので、操作方法をその理由を含めて指導をしていく必要がある。 ・植物の分類の視点を総合的に見直させ、問題演習を増やす必要がある。
大地の成り立ちと変化	○地震の規模を表すマグニチュードという基礎的な言葉の正答率はとても高かった。また、深成岩である花崗岩のでき方の理解度も高い。 ●地層によって、過去の様子の推測する問題の正答率が、低い傾向にある。また、地震の波の種類である初期微動という言葉の正答率が低い。	・地層の見方については、実際の現場における地層の観察が困難であるため、どのようにして生徒の学習意欲を引き出すかが、指導のかぎとなる。身近な場所の映像、画像などをもとにして指導したり、問題演習を増やすなどの対策が考えられる。